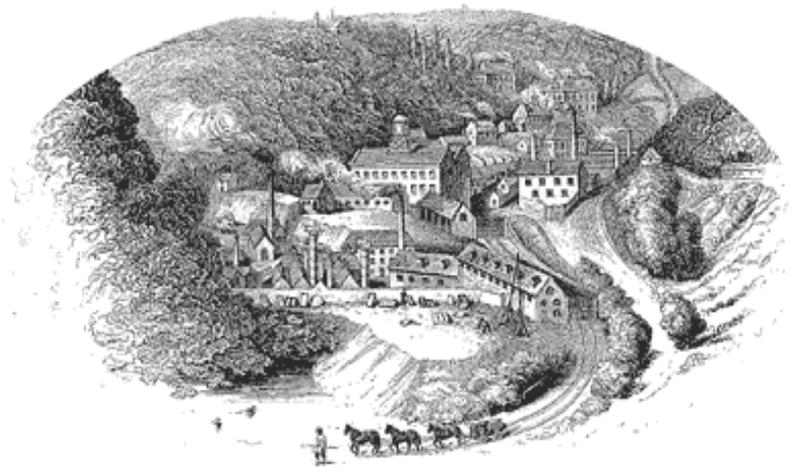


Coalbrookdale MUSEUM of IRON

コールブルックデール鉄博物館

1707年、アブラハム・ダービーは鉄釜の鋳造法に関する特許を取得しました。その後、ダービー家は数世代に渡り、鉄の車輪、レール、蒸気エンジン・シリンダ、鉄橋など、さまざまな鉄製品を製造しました。なかでも1779年にセヴァーン川に架けられたアイアンブリッジは特に有名です。ビクトリア時代に入ると、コールブルックデール社は装飾用鉄製品で名を馳せました。

コールブルックデール鉄博物館では、コールブルックデール社ゆかりの建物を保存し一般公開しています。この博物館とダービー溶鉱炉、そしてダービー・ハウスでは、1715年から1900年にかけて栄えた産業の町の名残を垣間見ることができます。



鉄はとても便利な素材で、使用目的に合わせてさまざまに加工することができます。そのため鉄は、産業革命において重要な役割を果たすとともに、現代の世界経済においても主要な素材として使われています。鉄の歴史は、主に3つに分けることができます。

鑄鉄

鑄鉄は約1,300℃で溶解し、溶けた鉄を鑄型に注ぎ込めば簡単に成型できます。鑄鉄は、鉄鉱石をピッグ・アイアンと呼ばれる溶鉱炉で溶かして製造します。鑄鉄は結晶構造で、3～4%の炭素が含まれています。そのため硬いけれど脆く、引っ張りに弱く、圧縮に強いのが特徴です。鑄鉄は、アーチ型橋の建造に使用されます。

鍛鉄

鍛鉄は、手作業で製造する鉄です。比較的柔らかく、加熱してハンマーやローリングにより成型することができます。鍛鉄の炭素含有量はとても低いため（約 0.05%）、衝撃や引っ張りに強い性質があります。鍛鉄は村の鍛冶屋で使われていましたが、産業革命では、ナットやボルト、そして蒸気エンジン・ボイラーなどに使われました。

鋼鉄

鋼鉄には、0.25 ～ 0.4% の炭素が含まれています。このわずかな炭素により、硬さと、鋭い角度の維持という鍛鉄にはない特徴が生まれます。鋼鉄は、はるか昔から武器や工具に使われてきましたが、高価で製造が難しいという問題がありました。しかし 1856 年、ヘンリー・ベッセマーが、鋼鉄の大量製造法を発見しました。この方法では、ハンマーやローリングにより鑄造を行うため、少ない労働力で、安価に大量の鋼鉄を製造することができました。そのため、鋼鉄は、工業分野において鍛鉄の代用素材として急速に広がっていきました。

展示品

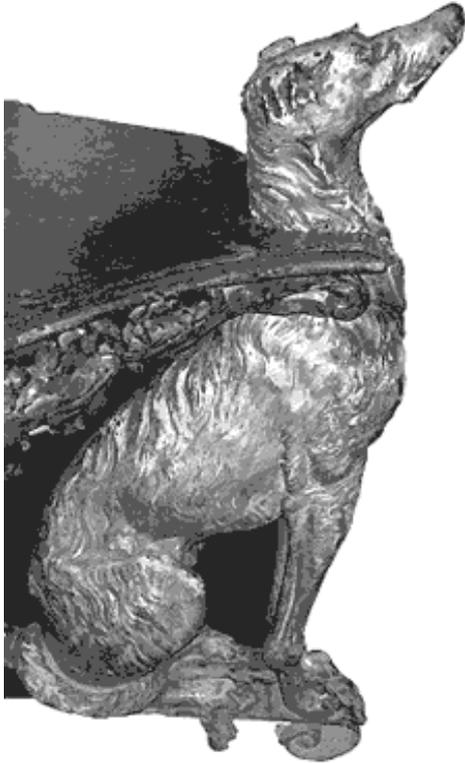
少年と白鳥の噴水

1851 年に、万国博覧会のためにコーブルックデール社が制作した噴水で、ジョン・ベル (1811 ～ 95 年) の設計です。博覧会の後、ウルバーハンプトン社が購入し、1880 年までマーケット・ホールに展示され、ウェスト・パークに移されました。その後、解体され保存されていましたが、WKV ゲイルが再発見し、1959 年にコーブルックデール鉄博物館が買取り、ダービー溶鉱炉の隣に展示しています。



1994 年の修復により、製造当時の同じ「ブロンズ色」（鑄鉄の色）に塗り直されました。噴水の周りを囲む手すりは鍛鉄製で、1994 年のブリスツ・ヒル野外博物館会議の期間中に、イギリス美術鍛鉄家協会の芸術家たちが設計、鑄造しました。

ディアハウンドのホール・テーブル



この美しいテーブルは、1855年のパリ万国博覧会に出展するためジョン・ベルが設計しました。テーブル全体が鋳鉄製で、4頭の実物大のディアハウンド(狩猟犬の一種)が、大理石仕上げのテーブル面を支えています。重量は約812キロです。ディアハウンドが付けている紋章は、1843年にランカシャー州、ブラックバーン近郊にあるブロード・オークのジョン・ハーグリーブスの紋章です。テーブルは、ハーグリーブスがパリの博覧会で購入し、同年に結婚した長男に祝いの品として贈ったものと考えられています。

このテーブルの購入には、国家遺産記念基金、資源/V&A 購入認可基金、国立美術収集品基金、記念碑財団、およびパトリッジ・ファインアート・リミテッドの支援を受けています。

最後の晩餐」プラーク

レオナルド・ダ・ヴィンチの名画「最後の晩餐」は、世界中の芸術家によって、さまざまな素材に描かれています。19世紀初めには、中央ヨーロッパの鋳造工場で鋳鉄による複製品の製造が行われ、1830年代にはコールブルックデール社でもこの名画を模したプラーク(盾)が製造されていました。

この複製品は鉄鋼のように磨き込まれていますが、青銅でも製造されており、多くの場合には、絵付けや金メッキが施されていました。これらの鋳造品は数多く製造され、たくさんさんの家の棚を飾りました。最高品質の複製品では、使徒の足の爪にいたるまで複雑な柄を細かく再現しています。

アンドロメダ

1851年の万国博覧会にコールブルックデール社が出展した品々の中には、ジョン・ベルが設計したアンドロメダの青銅像があります。この像は鋳鉄製で、1851年以降に作られた複製品です。オリジナルの青銅像は£300で売却され、ワイト島にあるビクトリア女王の邸宅、オズボーン・ハウスに飾られました。

この像は、ギリシャ神話のアンドロメダが題材となっています。海の神ネプチューンの怒りに触れたカシオペアが、許しを請うために娘のアンドロメダを海の怪物ティアマトの生け贄として差し出したのです。しかし、ゴルゴンを退治したペルセウスが、怪物を石に変えアンドロメダを助け出しました。

レトリバー & グレイハウンド

実物大の銅像「レトリバー」と「グレイハンド」は、フランスの有名な彫刻家クリストフ・フラタンの作品です。

驚きの雄鹿 & 草を食む鹿

19世紀には、雄鹿や鹿を題材とした絵画や彫刻に人気が集まりました。ビクトリア女王がスコットランドのバルモラル城を度々訪れ、スコットランドの風土や文化への興味が集まるようになると、これらの題材の人気はさらに高まりました。

大型彫刻である「驚きの雄鹿」は、動物の作品で有名なクリストファー・フラタンの作品です。「草を食む鹿」は、鹿の彫刻家 BW ホーキンスの作品と考えられています。

